

大学院教育学研究科

所 属 ・ 職 位	大学院教育学研究科（教職大学院）・教授	
氏 名	内田 昭利 (Uchida Akitoshi)	
取 得 学 位	博士（文学），北海道大学，2017 年 3 月	
S D G s 目 標		

研 究 分 野	教育心理学， 学校心理学， 数学教育学
研究キーワード	Evidence に基づく教育， 人間教育

研 究 内 容	人間教育の視点から， Evidence（科学的根拠）に基づく教育のための Evidenceを確立することを目指して， 理論と実践の往還に取り組んでいます。具体的には， 心理学の研究手法を用いて， 以下の研究を柱に取り組んでいます。 1． 自己効力感（Self-Efficacy）の向上に関する研究 自己効力感理論（Bandura，1977）の根幹をなす「成功体験は自己効力感を向上させる」との理論を初めてランダム化比較対象試験によって証明しました。さらに， 自己効力感を向上させた生徒は， その後の学業成績も改善させることが明らかとなりました。 現在， 自己効力感を向上させるための具体的な教育方法について研究を進めています。 2． 潜在意識と顕在意識の相違に関する研究 集団式潜在連想テスト（Mori, Uchida, & Imada, 2008）を活用し，「数学」に対する潜在意識を調査しました。アンケートによる顕在意識調査で「数学が嫌い」と回答しても， 潜在意識では数学を肯定的に捉えている生徒が， 全体の20%以上も存在していることを明らかにしました。これらの生徒に「心の中では， 数学を前向きにとらえている」と伝えることで， 成績の改善がみられました。論文として公刊するとともに， 広く知っていただくために書籍として出版しました。【右の書籍です】 現在， 様々な概念における潜在意識と顕在意識の相違に着目し， 研究を進めています。	
---------	---	--

研 究 業 績 ・ アピールポイント	アメリカ教育省教育資源情報センター（Education Resources Information Center）が運営する教育に関する研究のデータベース ERICに 4 本の論文が収録されています。 1. Uchida, A., Michael, R. B., Mori, K. (2018). An Induced Successful Performance Enhances Student Self-Efficacy and Boosts Academic Achievement. AERA Open, 4(4), 1-9 . 2. Uchida, A., & Mori, K. (2018). Detection and Treatment of Fake Math-Dislikes among Japanese Junior High School Students. International Journal of Science and Mathematics Education, 16(6), 1115 -1126 . 【右の論文です】 3. Mori, K., & Uchida, A. (2012). The leading group effect: Illusory declines in scholastic standard scores of mid-range Japanese junior high school pupils. Research in Education, 87 (1), 64-74. 4. Mori, K., & Uchida, A. (2009). Can contrived success affect self-efficacy among junior high school students? Research in Education, 82, 60-68.	
--------------------	--	---